opusdei.org

キリストのような人 格

人格形成とキリスト教的な成 熟に関する一連の記事を提供 します。人格は日常生活に のような影響を与えるか は変わることができるで は変わること はか いますか?

2015/01/08

「どうして私はあんな態度をとったのだろう」とか「なぜ私はいつもこうなのか」、あるいは「私は変わる

ことができるのだろうか | といった 疑問が頭をよぎることはないだろう か。時には「なぜあの人はあのよう に振る舞うのか」と他人に対して同 じ疑問を投げかけることも。・・・ 私たちの目指すのは、霊魂の中でイ エス・キリストが働かれるのを邪魔 せずに、徐々にキリストに似たもの になるというであるということを念 頭に置きながら、この問題を深く考 えてみたい。このキリストに似たも のになるということは人間のあらゆ る面に関わるものである。人間はキ リストに近づくとき、キリスト教的 召し出しに従って真に人間的な面を 高める。というのは、イエス・キリ ストは真の神であり真の人間である からだ。キリストの中に完成された 人間を見ることができる。ヨハネ・ パウロ2世も言っておられるよう に、「贖い主キリストは、(…)人 間を人間自身に完全に表わしまし た。そして、それは――もしこう言 えるなら――贖いの秘義の人間的な

面であり、特質であります。そして 人間もこの面において、自分の人間 性の偉大さと尊厳と本来の価値を再 び見いだします」(『人類の贖い 主』10)。

洗礼によって与えられた新しい生命 は、「わたしたちが皆、神の子に対 する信仰と知識において一つのもの となり、成熟した人間になり、キリ ストの満ちあふれる豊かさになるま で成長する」(エフェソ4・13)よう に呼ばれている。確かに超自然的な ものが個人的聖性の決定的な要素で あるが、このことは人間的なものを 内的かつ必然的なものとして包含す ることを忘れてはならない。という のは、「神の子としての責任を果た そうと努力する私たちに、神は真に 人間的であれとお望みです。頭は天 にまで届かせ、両足はしっかりと大 地を踏まえていなければなりませ ん。キリスト信者として生きると 言っても、人間であることをやめた

人格陶冶の作業

霊魂における恩恵の働きは、人間的な成熟、すなわち人格を陶冶する仕事と肩を並べて進む。それゆえ、聖性を目指すキリスト信者は、超自然の徳を培うと同時に、均整の取れた成熟した人間のもつ習性、考えおび動き方を身につけるよう努めねばい。それは単に完全になりたなと望むことではなく、キリストの生

き方に学びたいと望むことによって である。だから聖ホセマリアは次の ように自己を究明するよう励ます。

「子よ、人々があなたの中に探し求 めているキリストはどこにおいでに なるのだろうか。あなたの高慢の中 だろうか。他人を威圧したいという 望みの中だろうか。自分で克服しよ うとしないあなたの性格の欠点の中 なのだろうか。あなたの頑固さの中 なのだろうか。そんなところにキリ ストがおいでになるだろうか。絶対 にあり得ないことだ」と。そしてこ れに対する答えの部分は人格陶冶の 作業をするに当たってのヒントを提 供する。「個性を持たねばならな い。それは賛成だ。しかしあなたの 個性がキリストの個性と同じになる ように努力しなければならないし (『鍛』468)。

各人のパーソナリティには、遺伝的で生まれつきの気質と言えるようなものや、後天的なもの、すなわち教

育や個人の努力、人や神との付き合 いによるもの、また無意識のうちに 影響されることさえある他の多くの 要因が影響する。その結果、様々な 種類のパーソナリティ、あるいは性 格が生まれる。例えば、外向的な人 と内向的な人、情熱的な人と冷静な 人、のんきな人と神経質な人など。 このような性格は、仕事の仕方や人 との接し方、日々の出来事のとらえ 方などに現れる。これらの要素は、 いくらかの徳の成長を助長したり、 あるいはもしそれを制御することを しなければ、欠点を大きくしたりす ることによって、人格形成に影響す る。例えば、進取の気性に富むとい う性格は、勤勉さを培うのに役に立 つが、しかるべき努力をしなけれ ば、移り気や活動主義という欠点に 陥る危険もある。

神は私たちのパーソナリティを考慮 に入れながらが聖性の道に導いて下 さる。各自のあり様は神が鍬を入れ

られる肥沃な土地のようなものと言 える。私たちのするべきことは、忍 耐と喜びを持ってその土地から神の 恩寵の妨げとなる雑草を抜き取り石 を除くことだけである。そうすれ ば、「あるものは百倍、あるものは 六十倍、あるものは三十倍の実りを 結び | 始めるだろう。もし一人一人 が、聖霊の働きに抵抗せず、キリス トの御顔を反映するパーソナリティ を作り上げようとするなら、各自の 個性をいささかも損ねることなく、 神から頂いた才能を十分に利用して それなりの成果を上げることができ るだろう。なぜなら、「天国の諸聖 人が、それぞれ独自の個性を備えて いるように、あなたたちも各々異 なっているはずである | からである (『道』947)。

私たちは各自の性格を磨き強めてキリスト教的な人格を形成する必要があるとはいえ、何か超人のようなものに変身することだと考えてはなら

ない。実際、モデルはいつもイエ ス・キリストで、イエスは私たちと 同じ人間の本性をお持ちになるが、 それは恩寵によって高められ平凡さ の中に完成された人間性である。も ちろん、聖母マリアにもすばらしい 模範を見ることができる。彼女に は、人間的なものが余すところなく ある。しかし、それは平凡さに包ま れている。マリアのよく知られた謙 遜と素朴さ(この二つはキリスト教 の伝統のなかで最も評価された資質 かも知れないが)は、彼女のすべて の子供たちに対する愛情と優しさ (よい母親のもつ徳)と並んで、そ の事実をこの上なく証明している。 最高の被告物(「あなたより優れて いるのは神だけです|「『道』 4961) であるマリアは、あまりに も人間的で、あまりにも魅力的な女 性、至高の貴婦人であるのだ。

人間的成熟と超自然的成熟

徳として知恵と賢慮を置いた。あの 当時のキリスト教の哲学者や神学者 は対神徳の優越性を示し、なかでも パウロが「完全性の要」と呼んだ愛 徳を他のすべての徳に形を与えるも のとして示すことで、この二つの徳 の概念をさらに豊かにした。

現在では人間的成熟についての考察 は、近代科学が提供する様々な見方 によって豊かになっている。それら の結論は、キリスト教の人間観と対 立しない人間観を基盤としている限 り、大いに役に立つ。例えば、成熟 度を計るとき、知的面、情緒面、社 会的面の三つの面がよく区別され る。知的な成熟度を示すものとして は、自分についての冷静な評価(自 分について現実に近い評価を下すこ とは、自分自身に対して誠実である ことの結果である)、正しい人生 観、明確な個人的目標を立てると同 時に(深さにおいても強さにおいて も)無限に開かれた展望をもつこ

と、調和のとれた価値観、確固とした道徳観、自分と世界を前に健全な現実的味方を堅持すること、問題が起きた際に落ち着いて考え分析できる、創造性とイニシアティヴを持つこと、など。

情緒面における成熟を示す特徴に は、網羅するつもりはないが、次の ものを挙げることができる。失敗を したとき極度に気落ちすることな く、他方成功を前に現実を見失うこ となく、人生の出来事に適当な反応を することができること、自己をフレ クシブルにかつ前向きに制御できる 力、隣人に対して自己を与え寛大に なることができる、決定や約束を しっかり守ることができる、困難を 前にして落ち着きを失わす挑戦でき る、楽観的で明るく人好きのする性 格とユーモア。

最後に社会的面での成熟さの部分と しては、隣人に対する誠実な愛情、 隣人の権利に対する尊敬と、その必要性を見つけ助けたという望み、異なる意見や価値観や文化的側面のもに対し偏見を持たずに理解しよ文化ののと、周囲の支配的な文化を流行に対して、批判の言なもち流されないこと、人けは自をもち流されないこと、分け隔ことを聞き理解する能力、分け隔ことをした協力することができることができると。

成熟への道

これらの特徴を次のようにまとめることができるだろう。つまり、成熟 した人とは人生において明快で調和でまな企っためとは、実積を容易にとることが変易にといずれにしても、は、との大になるためには、様々なければるというない。人間としての成長は、時間がかり段階的であることが普通である。

る。ただし、個人の人生において目 を見張るような飛躍があることがある。 たとえば、初めての子供が生生 れることは、ある人には新りに いることは、その人生を画期いはで を自覚させ、そがある。あると後済状況を乗り越えた後で しい経済状況を乗りが本当に重要と しいを深く考える機会を持つこと ある、など。

この成熟に向けた道において、恩寵 がいかに人を変えるかが浮き彫りに なる。最も著名な男女の聖人たちの 人生をざっと見るだけでも、彼らの 中に高い理想、自己の確信の確実 さ、自己についての最も正確な評価 である謙遜と同時にあふれるような 創造性や自主性、実行に移された献 身や愛の能力、人に伝わる楽観的な 見方、あらゆる人に開かれているこ と(結局、使徒職の熱意)などが認 知できる。その明らかな一例が聖ホ セマリアである。彼はまだ青年のと

きから恩寵のおかげで成熟した人格 が形成されていったことに気づいて いた。自分が、困難の中で、尋常で はないほどの安定した気持ちがある ことに気がついていた。「どうも主 は私の魂に平和というもう一つの特 徴をお与えになったようだ。平和を もち、平和を与えること。私が指導 したり話したりする人たちの中にそ れが確認される」(『霊的覚書』 1095)。彼には詩編118の言葉「私 は老人より分別がある。あなたの掟 を守るがために|を当てはめること ができた。だからといって、普通は 成熟した性格を身につけるには時間 と失敗と成功がいる。それらは神の 摂理に織り込み済みである。

恩寵と時間を勘定に入れる

たとえある人が成熟に達したと言える時があるとしても、各自の人格を磨く勤めは一生続く。自分がどんな性格なのかを知りそれを受け入れれ

「キリストの英雄たちの本当の伝記 は私たちと同じなのです。彼らとは 戦っては勝利を得、また戦っては 勝利を得、そして りてなり、そして もしたのです。そして 再び戦いたのです」(『知識の香』 76)。自己のありてのたゆま は長い時間をかけてのたゆまぬ がは長いに置かれる。今列福調・ を急頭に置かれる。今列福調・ を急頭に置かれるが彼女に言った は参考になる。「ドラ、あなたを見 た人が今あなたを見たら、同じ人と は思わないでしょう」と。つまり、 長年の努力の末、激しい性格の角を 削り穏やかなものにすることでバラ ンスのとれた人となるに至ったので ある。この勤めを遂行するにあたっ て、私たちはいつも主の助けと聖母 の母としての配慮に頼ることができ る。「聖母はまさにこのことをして 下さる。私たちが人間的にも信仰の 面でも成長することをお助け下さ る。また私たちを強くし、軽薄で表 面的な信者のままで十分だという誘 惑に一歩も譲らず、責任感をもって 生き、ますます高い理想に向かうこ とができるように助けて下さる| (フランシスコ、2013年5月6日の説 教)

次号から人格の形成に関係する様々な要素を取り扱う予定である。キリスト教的成熟のいくらかの重要な特徴を示し、聖霊が各自の協力を得て、魂の中に建てようとされる建物

とはどんなものかを見る。そして、 その基礎がとういう特徴を持つか、 その構造が堅固になるために何をし なければならないか、ひびが入れば どういう処置を施さねばならないか を考察しよう。イエス・キリストの 像を鮮明に写す人格を作るとは、な んと魅力的な挑戦であろう。

ハビエル・セセー

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/kirisutonoyouna-jinkaku/ (2025/11/22)